

愛犬との
ふれあいの俳句



夏

佐怒賀正美 選

特選

甘噛みの犬と分け合う扇風機

折田祐美子

【評】 家の中で扇風機をかけながら、猛暑を涼しくやり過ごしているのだろう。気持ちよい涼しさに、犬も気を許して作者に甘噛みをしてくる。上五を「甘噛みの犬」とコンパクトに収めたことで、中七下五のスペースが生まれた。

ラムネ越し「クスツ」と笑える歪む犬

佐藤 優子

【評】 こんな所にも犬の俳句の世界が残っていた。「ラムネ」が夏の季語。懐かしい瓶からラムネを飲むとしたとき、中ほどが窪んだその瓶越しに愛犬が大きく歪んで見えた。思わぬ犬の姿に作者は「クスツ」と笑ってしまったのだ。

牛を追ふ牧場犬に夏の風

関根由美子

【評】 広やかな緑の牧場に牛を追う役の犬がいる。私自身はまだこの風景を実際に見たことはないが、訓練を積んだ犬なのだろうか。懸命に牛たちを追いつて移動させる犬に、その労を労うかのように一陣の涼風が吹いてくれた。

ドッグランミストの前を往き来する

東耕 真

【評】 今年もまた異常な暑さが続きそうだが、このドッグランもそんな状況下なのであろう。犬たちが自由に駆け回れる筈なのだが、犬たちも自然とミストの近くに集まってきてしまう。犬たちも涼しい場所が気持ちいいのだ。

水彩に犬を描ける夏の庭

野上 卓

【評】 暑いときは部屋にこもって涼をとるのもよいが、作者のように縁側にでも座って愛犬をスケッチし水彩画に仕上げるのも心豊かな時間だろう。もちろん、犬も庭の木陰に気持ちよさそうに体を休めているのだろう。

募集要項

- 日本で唯一の「犬」をテーマにした俳壇です。愛犬とのふれあいの中で得た感慨を俳句にしてご応募ください。
 - 一般部門と児童・生徒部門（中学生以下）の2部門があります。
 - 原則として、五七・五の17音でまとめてください。
 - 募集期間は「春」（1～3月）、「夏」（4～6月）、「秋」（7～9月）、「冬」（10～12月）年4回の開催で、開催ごとに最終月末に締め切ります。
 - 応募作品には、四季折々の「季語（季節を表す言葉）」を入れてください。
 - 郵送での送り先…〒101-8552東京都千代田区神田須田町1-5（一社）ジャパンケネルクラブ広報課「愛犬とのふれあいの俳句」係
 - ウェブでの送り先…左記QRコード・J K C H P の専用フォームより入力してください。
- 詳しくはこちらをご覧ください▼



入賞・発表

- 開催ごとに以下の入賞句を選出します。
- 特選…5句
- 入選…10句
- 佳作…20句以内
- 児童・生徒の部入選…若干句
- ※入賞された方には、記念品（図書カード）をお送りします。入選句は会誌『J K C ガゼット』に掲載されます。

入選

蛍舞い犬も乱舞をくり返す

荒木 史江

にらめつこ子犬と金魚まんまる目

荒木 光弘

新緑の森の小径を犬走る

磯脇 博志

愛犬へハンディーファンの風半分

伊東 真

すててこの胡坐を犬と譲り合ふ

近江 堇花

フリスビー追ふコーギーの半ズボン

木村 隆夫

犬を飼うその犬小屋で子亀飼う

坂上絵利子

愛犬の分も縫ひ上げ初浴衣

中島 紀生

傍らの犬の寝息や遠火花

橋本 有子

南吹く犬の遊べる港町

安田 清一

佳作

どんとと犬進みゆく夏の空

伊藤 照子

草笛を吹けば愛犬振り返り

内田 学

犬小屋に入らずに寝る庭の蔭

浦上 昭一

雷鳴にふるえ止まらぬ犬を抱く

占部 耕三

蟬の声切り拓き行くトイプードル

葛西 則子

夕立に濡れてはしゃげる老いし犬

菅能 望

虹立つや母愛犬の待つ空へ

北内 康文

夏木陰息ととのえて犬と待つ

北川 順子

雨あがり虹を追いかけリード引く

串間 好美

夏雲に愛犬の姿重ねぬる

栗原 智美

愛犬は老の宝や薔薇匂ふ

佐藤真知子

走り梅雨あきらめがちの犬の顔

杉本 谷夫

亡くなった犬そつくりの夏の雲

須藤 茂夫

黒犬とまた擦れ違ふ油照

竹澤 聡

雷鳴や犬のおへそを探す孫

田中 浩温

愛犬も我も夏祭りど真ん中

都築 広子

明易を目覚めし犬のしつけさよ

道願 麻子

父さんと愛犬メリー夏の空

延永 聖慈

風鈴や吾の指先なめる犬

星月彩也華

軽トラの助手席は犬青田風

前田 千文